

| | | | |
|-------------|--|---------|----|
| ふりがな 氏 名 | くにきょう けいこ 國京 恵子 | 職 名 | 講師 |
| 取得学位 | 修士「人間発達学」 | 学会での受賞歴 | |
| 主な担当科目 | 保育内容演習(人間関係)Ⅰ、保育内容演習(人間関係)Ⅱ、保育内容演習(言葉)Ⅰ、保育内容演習(言葉)Ⅱ、保育内容演習(健康)Ⅱ、幼児と人間関係、保育内容総論、保育内容総論Ⅰ、保育内容総論Ⅱ、乳児保育、教育実習指導Ⅰ、教育実習指導Ⅱ、教育実習指導、保育教職実践演習、保育実習指導 | | |
| 所属学会 | 日本保育学会、日本発達障害学会 | | |

◆ 教育業績

| 事 項 | 実 施 年月(日) | 概 要 |
|--------------------------------------|-----------------|--|
| リフレクションシートの作成 | 平成 29 年 9 月 | ・15 回の授業において授業の内容を記録・省察することによって子どもの人間関係と言葉に着目して、保育者の学びの意欲を促した。 |
| 実習に役立つ製作物の作成 | 平成 29 年 11 月 | ・実習時に役立つ指人形の製作。模擬授業を行った。グループワークを経験することにより子どもの人間関係とそこから育まれる言葉において、他者の多面的な見方や保育の言葉への取り組みを知る手立てとした。 |
| 事例検討を中心に置いた授業計画作成 | 平成 29 年 6 月 | ・実戦経験のない学生に、より保育を実感させるため事例を多く取り上げたパワーポイントを作成し、視覚的な効果を図った(言葉と人間関係を中心に) |
| グループワークによる実践事例検討 (学生の言葉と人間関係に着目) | 平成 29 年 6 月 | ・グループワークを経験し、自分の考えを整理し多様な他者の考えを知ることにより他者と問題を共有し多面的な幼児の捉え方の学び(子どもの人間関係と子どもの言葉)を促した。 |
| 指導計画(日案)の作成、グループ討議、グループ発表。模擬授業 | 平成 29 年 7 月 | ・秋の幼稚園実習に向け、オリジナルな指導計画(日案)を作成させ、子どもの人間関係において言葉が重要なカギとなることを認識させた。・子どもの主体的な思いや活動を尊重する保育の重要性に目的意識を持たせた。 |
| 領域:人間関係において、指導計画の作成、グループ討議、模擬授業、冊子作成 | 平成 30 年 12 月 | ・領域人間関係の授業で学んだことから、指導計画を個々に工夫し意図をもって作成することにより、保育実践へのイメージを持たせた。また、模擬授業を行い、グループ討議を行い、保育者の役割について考えるとともに保育の多面的な見方を養った。 |
| 平成 31 年度用実習の手引きの編集 | 平成 31 年 1 月 | ・児童教育学科配布資料の編成に加わり、加筆修正を行った。 |
| 指導計画(日案)の作成、グループ討議、グループ発表。模擬授業 | 令和元年 7 月 | ・幼稚園教育実習指導において、オリジナルな指導計画(日案)を作成させ、保育上の留意点などの記述方法を指導した。・子どもの主体的な思いや活動を尊重する保育の重要性に目的意識を持たせた。保育者意識の動機づ |

| 事 項 | 実 施 年月(日) | 概 要 |
|--|--------------|--|
| 令和2年度授業におけるリフレクションシートに自己評価欄の追加 | 令和2年 4月 | けを行った。 保育内容演習「言葉」「人間関係」の授業における学びや気づきを省察し自己評価を行うことにより、保育者にとって重要な振り返り(自己評価)を PDCA サイクルにつなげ、専門性を高める等の意識改革を行った。 |
| 令和3年度授業におけるリフレクションシートに自己評価欄の自己課題についての記述を追加 | 令和3年 4月 | 前年度内容を踏まえて保育者意識を高める振り返りに着目した指導を行った。 |

◆ 研究業績

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称 | 単 ・ 共 | 発 行・ 発 表 年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名) | 備 考 |
|-----|---|-------------|----------------------|--|--|
| 著 書 | 『子どもの人間関係から育くまれることば』 | 共 | 平成29年 12月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『教職・保育職シリーズ4 教育・保育の学びプラス・ワン』 | 著者: 國京恵子・他26名。全160ページ中、第7章(p.120～p.125)を執筆 |
| | 『子どもの人間関係と言葉を支える援助の視点』 | 共 | 平成30年 3月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『教職・保育職シリーズ5 教育・保育の新視点』 | 著者: 國京恵子・他30名。全310ページ中、第3部・第4章(p.191～p.200)を執筆 |
| | 『保育の質—同僚性から—』 | 共 | 平成30年 7月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『教育・保育の論点ガイドNo.3』 | 著者: 國京恵子・他23名。全202ページ中、第1章第10節(p.78～p.84)を執筆 |
| | 『専門職としての保育者』 | 共 | 令和元年 7月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『シリーズ教育・保育の論点教授法と子ども理解』 | 著者: 國京恵子・他18名。全142ページ中、第1部第5章(p.33～p.40)を執筆 |
| | 『多文化共生保育・教育における現状と課題』 | 共 | 令和2年 8月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『シリーズ教育・保育の論点理論と実践』 | 著者: 國京恵子・他15名。全122ページ中、第1部 第6章(p.40～p.47)を執筆 |
| | 『早期離職をとどまらせる—育ちあう保育者の関係づくり』 | 共 | 令和3年 7月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『シリーズ教育・保育の論点新時代の学び』 | 著者: 國京恵子・他17名。全136ページ中、第1部 第8章(p.57～p.63)を執筆 |
| 論 文 | 『子どもの言葉の発達と認識—つぶやきの分析から』 | 単 | 平成29年 10月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『児童教育論集第1号』 | p.191～p.200 |
| | 『幼稚園教育実習において保育者になるための学びをどのように獲得していくのか—子どもの「言葉」と | 単 | 平成30年 2月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『教育・保育モノグラフNo.2学 | p.240～p.249 |

| 区分 | 著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称 | 単・共 | 発行・発表年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名) | 備考 |
|---------------------|--|--------|---------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 論文 | 「人間関係」に着目して一』 | | | びの循環』 | |
| | 『保育現場における記録方法の検討』 | 単 | 平成30年3月 | 愛知県立大学生涯発達研究所 / 『生涯発達研究第10号』 / 愛知県立大学 | p.85～p.91 |
| | 『幼稚園教育育成過程における領域「人間関係」授業の省察—学生の意識調査より—』 | 単 | 平成30年12月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『児童教育論集第2号』 | p.128～136 |
| | 『保育者養成校における学生の保育者意識を高めるための授業方法の検討』 | 単 | 令和2年3月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『名古屋女子大学紀要第66号』 | p.297～p.307 |
| | 『インクルーシブ保育におけるプロジェクト活動の展開方法—異年齢クラスでの実践の分析を通して—』 | 共 | 令和3年3月 | 愛知県立大学生涯発達研究所 / 『人間発達学 研究第12号』 / 愛知県立大学 | 山本理絵 國京恵子 p.85～p.102 |
| | 『新型コロナウイルス感染症に対して保育所や幼稚園あるいは小学校に通う子をもつ保護者が子どものために必要と考える感染対策について』 | 共 | 令和3年12月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『児童教育論集第5号』 | 高橋哲也、大曾基宣、 國京恵子 p.26～p.30 |
| | 『保育職の魅力を支える園内研修の検討』 | 単 | 令和3年12月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『児童教育論集第5号』 | 國京恵子 p.120～p.129 |
| | 『異年齢クラスにおけるインクルーシブ保育の方法—プロジェクト活動の実践分析を通して—』 | 共 | 令和4年2月 | 愛知県立大学教育福祉学部 / ユニテ / 『愛知県立大学教育福祉学部 論集第70号』 | 山本理絵、山中智尋、 高尾晴香、國京恵子 p.61～p.72 |
| 『多文化共生保育における保育者の役割』 | 単 | 令和4年3月 | 名古屋女子大学児童教育学科 / 三恵社 / 『名古屋女子大学紀要第68号』 | p.207～p.219 | |